

## 「いのちの大切さの実感尺度」作成の試み

学校教育学専攻  
臨床心理学コース  
M10053I  
沖川克枝

### 【問題と目的】

わが国の学校教育における命の大切さを実感させる実践的な試みとして、兵庫県教育委員会は平成17年度より「命の大切さを実感させる教育プログラム」を行っている。阪神・淡路大震災と連続殺傷事件をうけて心の教育を推進し、小学校・中学校・高等学校の発達段階に応じて、命の大切さを実感させる教育プログラムを研究・開発し、実践している。そして、命を大切にすることが様々な問題行動を抑止することを提案してきた。今までの命の教育実践的研究は、海老根(2008)によると「死生観の育成を目的とした教育とは、個人にとって生きる意味、死ぬことは何かについて考え、命の尊さについての認識を深め、死や生に伴って生じる様々な問題について学び、考察することを目的とした教育」と定義している。そして、効果を実証的に扱った研究はほとんどないに等しく、その実践例や感想を報告したものがほとんどであると海老根(2008)は、述べている。本研究では、人とかかわりをどのように感じているかを明らかにし、その結果から「いのちの大切さの実感尺度」を開発することが研究の目的である。

### 【予備調査】

命の大切さの実感教育プログラムを実践してきた中で子ども達の授業後の振り返りシート5.6年生240人から抽出し感想記述を取り入れた。犯罪被害者の会の遺族の話の後の子どもの感想や高砂市生活アンケート、文部科学省の健康調査生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査等生活から行動意識に焦点を向ける既存の尺度を加え340項目を選出し質問構成した。その後、得られた回答についてKJ法による分類を行ったうえで不適切な項目に削除・修正を加えた61項目を、命の大切さ実感尺度として選定した。

### 【研究Ⅰ いのちの大切さ実感尺度の作成】

#### 1. 方法

**対象：**A県下の公立小中学校に在籍する小学校4.5.6年生176名、中学校1・2・3年生の生徒560名合計736名に対し、質問紙による調査を実施した。信頼性は、Cronbachの $\alpha$ 係数を用いて検証し、構成概念妥当性の検討は、学級担任による児童生徒の行動評定5項目3件法とする。教師評定項目は、「けんかをする」「保健室に行く」「遅刻や休むことがある」「特別な支援が必要である」「クラスをまとめる」とした。

#### 2. 結果と考察

「いのちの大切さ実感尺度」の因子構造を検討するため、因子分析を繰り返し、最終的に、6因子37項目が抽出された。

### 【研究Ⅱ いのちの大切さ実感尺度の作成】

#### 1. 目的

研究Ⅰでは、「いのちの大切さ実感尺度」を作成した。しかし、本尺度で測定される概念と類似した概念が影響すると考えられる要因との関連は明らかにされていない。研究Ⅱの目的は、「いのちの大切さ実感尺度」と関連があると考えられる自尊感情・自己効力感・向社会性との関連を明らかにし、尺度の併存的妥当性について検討することである。

#### 2. 方法

**対象：**A県下の公立小中学校に在籍する中学1年生の生徒292名小学4・5・6年生414名対し、計706名の質問紙による調査を実施した。尺度の妥当性の検討として基準関連妥当性の検討のため、本尺度の6下位因子尺度と、向社会性尺度(嶋田ら,1993)・自己効力感尺度

(Sherer, M, Madduc, J, Mercandnte, B, Prentice-Dunn, S, J

acobs, B. & Rogers, W. (1982) Self-efficacy Scale (訳: 桜井茂男 1987))・自尊感情尺度 (Pope, A. W., McHale, S. M. & Craighhead, W. E. (1988) Self-esteem scale (訳: 高山巖 1992)) との相関分析を行った。

研究 I で算出できた、6 因子 37 項目から、家族ネガティブの因子項目に関しては、教育現場で命の教育プログラムを実施時、プログラム効果測定に加味しにくいと考えられ、4 項目を削除し、 $\alpha$  係数の低かった他者侵害因子 ( $\alpha = .65$ ) の下位項目の見直しをはかった。また、記名式の尺度であるため生徒指導上の問題にも関連することから「22. 他の人のものをわざとこわしたことがある」「27. 他の人のお金や物をとったことがある」2 項目を削除し、追加の項目を入れた。VI 因子「相談」の下位項目 2 項目と項目数の適正化をはかるため、項目数を増やし、6 因子 33 項目とし実施した。

### 3. 結果と考察

本研究は、小学生・中学生の命の大切さ実感尺度構成を目的とするものであり分析の結果、一定の信頼性と妥当性が得られたと考えられる。Cronbach の  $\alpha$  係数より、各下位因子において十分な内的整合性が確認された。研究 I の結果からも家族と命との関係を特に分析の対象としたかったため、因子数を 6 に指定し最尤法、プロマックス回転による因子分析を繰り返し、因子負荷量が .35 未満の項目、2 つ以上の因子に .35 以上の負荷を持つ項目を削除した。最終的に、命の実感尺度として 27 項目が抽出された (Table 2)。本尺度の 6 因子における累積寄与率は 46.16% である。Table 3 で性差・校種による分散分析の結果を示す。

Table 3 研究 II 性差・校種による平均値と分散分析

		小学校				中学校				主効果			交互作用		
		男子		女子		男子		女子		F値	校種	F値	F値	F値	F値
		N=572	177	161	110	124	(df=1,508)	(df=1,508)	(df=1,508)						
家族	平均	17.10	17.91	15.79	15.98	2.98*	31.83***	1.10n.s.							
	標準偏差	.26	.27	.32	.30										
他者理解	平均	14.70	16.22	12.68	14.67	29.91***	30.79***	.469n.s.							
	標準偏差	.28	.30	.38	.34										
セルフコントロール	平均	21.40	22.40	21.96	20.33	.15n.s.	27.96***	.024**							
	標準偏差	5.05	4.35	3.94	3.97										
他者侵害	平均	10.82	9.57	13.85	12.64	8.16***	49.89***	.96n.s.							
	標準偏差	5.28	5.51	4.42	4.85										
ソーシャルサポート	平均	12.37	14.12	11.88	13.58	21.59***	1.99n.s.	.96n.s.							
	標準偏差	4.75	4.60	4.15	3.69										
命	平均	13.72	14.00	12.83	12.01	1.80n.s.	48.09***	.000***							
	標準偏差	2.29	2.01	2.43	3.04										

\*\*\*:p<.01 \*\*:p<.05 \*:p<.10

Table 2		命の実感尺度 因子分析結果 (最尤法プロマックス回転)						N=572	$\alpha = .82$
質問項目		I	II	III	IV	V	VI		
I 家族 $\alpha = .79$									
14	家の人命の命を大切に思っている	.927	-.071	.028	-.025	-.047	.007		
8	家の人には、命を大切に思う	.843	-.068	.019	.049	-.002	.046		
22	家の人には、本気で困ったときに助けてくれる	.534	.089	.088	.047	.029	-.034		
19	家の人から、命を助けてくれたとしても、命のことを考えることである	.396	.255	-.145	-.038	.077	.094		
II 他者理解 $\alpha = .76$									
20	悲しくて泣いている人を見ると、自分も悲しい気持ちになる	-.003	.848	-.191	-.019	.009	-.059		
31	困っている人を見たら、何かしてあげたいと思う	-.020	.704	.141	.076	-.031	-.024		
15	他人が申せたと罵もつらい	.095	.620	-.040	-.049	.067	-.028		
28	友達の良いところを褒めたら、それを認めたり、励めたりする	-.086	.580	.107	.043	.055	.059		
III セルフコントロール $\alpha = .79$									
4	あきらめずに物事をやりとげることができる	-.008	-.098	.761	.025	-.059	.099		
23	何かに対して一生懸命がんばることができる	.030	.095	.619	.081	-.175	.194		
2	友だちの話をきくときは、相手の話をしようとする	.024	.122	.526	-.064	.160	-.164		
5	友だちの気持ちや考えを聞きながら話す	-.037	.173	.508	-.173	.034	-.050		
11	自分の考えを誰かに打ち明けて相談できる	.026	.071	.486	.026	.066	-.053		
1	緊張した時、すぐに落ち着くことができる	.055	-.239	.421	-.008	.142	-.012		
IV 他者侵害 $\alpha = .73$									
29	人をたたいたりすることがある	-.038	.006	.010	.664	-.040	.044		
7	誰か立った時、どなる	.095	.152	-.079	.653	-.008	-.025		
21	ちよつとしたことでもかっとなってしまふことがある	.013	.088	.050	.643	-.015	-.083		
12	友だち同士で話をしている中で『うざい』『死ね』という言葉を使う	-.032	-.150	.065	.567	.089	-.055		
18	何でも理由を付けてのせいにする	-.001	-.190	-.064	.426	.065	.024		
V ソーシャルサポート $\alpha = .74$									
13	困った時、人に助けられるように願む	.036	-.011	.078	.058	.632	.002		
3	家の人や先生に相談する	.122	-.023	.043	-.085	.605	-.127		
26	人にどうしたらよいかを聞く	-.140	.059	-.077	-.001	.597	.221		
9	困った時、友だちに相談する	-.025	.092	.023	.087	.579	.109		
VI 命 $\alpha = .77$									
10	自分の命を大切に生きていこうと思う	.139	-.104	-.008	-.059	.043	.762		
27	どんなことがあっても自分で命を犠牲にしない決めている	-.047	-.064	.038	-.018	.107	.666		
24	自分が生きていることに感謝の気持ちをもっている	.124	.201	.062	-.010	-.039	.544		
寄与率 (%)									
因子間相関									
I	II	III	IV	V	VI				
II	.492	—							
III	.475	.595	—						
IV	-.262	-.325	-.336	—					
V	.436	.527	.460	-.136	—				
VI	.637	.389	.442	-.219	.380	—			

### 【考察】

本研究の目的は命の授業は、大切だと言われているが、筆者が命のプログラムを学校現場で実施した時に適切な教育効果測定ができる評価尺度がなく作成に至った。

本研究により、命の大切さの認知および行動は、家族との関わりが大きく関与していることが考察できた。当初仮説では、家族のポジティブな関わりや命の大切さと因子をわけていたが、分析の結果同じ因子構造の中に集約された。結果、命は家族との関わりに深い関係があり、関係が強いことが分析の結果判明した。

研究 I・研究 II とも各調査協力校各クラスへフィードバック資料を作成した。児童生徒個人の生活に対する認知行動が客観視できるデータであり、子ども自身が自己チェック内省でき、生徒指導やカウンセリング週間や個人懇談など児童生徒理解に繋げる指標となった。個別への個票としてフィードバックすることも可能な尺度となり、ソフトの開発も視野に入りたい。教師自身にも、評価できる指標が必要であり今回の研究成果となった。

主任指導教員 富永 良喜  
指導教員 富永 良喜